『経営に役立つヒント』

令和五年六月一日　第二百四十一号

来年、四十年ぶりの新一万円札の肖像画になるのが渋沢栄一です。
渋沢栄一は、日本資本主義の父と言われ、五百社の企業設立に関与した、世界に誇る経営の巨人です。
「道徳経済合一説」を提唱し、その信念を生涯貫き通しました。そこには、血肉化した「論語」が、ベースにあったことは間違いありません。

マネジメントだ、コンプライアンスだ、コーポレートガバナンスだと、日本の経営者の器が小さくなった今こそ、我々は渋沢栄一に学ぶべき秋であると思います。
事業の目的とはなにか。何の為に経営をするのか。今一度、その根本・本質を確かめ、自信を持って経営をして行こうではありませんか。

渋沢の思想を表す言葉に、次のようなものがあります。
「真の成功なるものは、道理を立脚地として俯仰天地に愧じざる行動をもって、国家社会に有益なる事業をなし、もって富を作るにある。人間行為の標準として、一時も忘る能わざるものは、その行為の正邪・善悪であって、成功不成功はこれを天に任す外ない。人道を踏み外して成功の地位に達する如きは、これは全然価値無きものである」

この短い言葉に、我々中小企業の社長が、深く胸に刻むべきものが凝縮されています。
一つ、**道理を立脚地とする。**
　ついつい道理を忘れ、目先の損得・有利不利に振り回されていないか。
一つ、**俯仰天地に愧じざる行動。**
　いやしくも、一社を率いる社長として、法律や規則を超えた、天に地に愧じない行動か。
一つ、**国家社会に有益なる事業をなし、もって富を作る。**
　一個人一企業のみを優先していないか。脱税は言うに及ばず、節税と言いつつも心に問い、一点のやましい事もないか。
一つ、**人間行為の標準は、行為の正邪・善悪であって、成功不成功は天に任す。**
　唯々、至誠のみで行為を進めているか。外聞や他人の評価を気にしていないか。
一つ、**人道を踏み外しての成功はない。**
　社会や取引先、あるいは社員を犠牲にしての儲けではないか。

もう一つ紹介するならば、こう語っています。
「いかなる人を士と言うべきか。実業家もまた士である。この士たる者の経営するところの商工業の最終の目的は、すなわち国家をして、富みかつ強からしめるにある」

私は、会計人として中小企業の社長と付き合い四十余年になりますが、将に「我が意を得たり」と思う箴言に出会ったと感動しました。
嗚呼、学ぶべきは偉大なる我々の先達であると、しみじみ感じ入っています。

社長、共に日本を良くしたいと考え、日々実践している仲間ですから、渋沢栄一に学び、素晴らしい会社を創って参りましょう。
自由主義世界の会社経営を正しい方向に導くのは、最早アメリカでも欧州でもありません。我々、日本の中小企業の社長なのです。

今月のポイント
さあ、日本の中小企業の
社長の出番です!!